

今日のキーワード 投資環境を考える⑥ 「為替」と「為替ヘッジ」

外国「為替」は、米ドルと円、ユーロと円、あるいは米ドルとユーロなどのように、異なる2つの通貨を交換することで、その交換比率を表したものが「為替」レートです。「為替」レートは、各国の経済状況や金利差など、各通貨の価値・魅力がどのように変化したのか、それを市場がどう判断したのかによって変動します。こうした「為替」の変動に対し、「為替ヘッジ」を行うことにより、為替変動のリスクを低減することが出来ます。

ポイント1

「為替」レートは、2つの通貨間の価値の変化です

金利差や経済成長格差、政治状況やインフレなどが為替の変動要因

- 例えば、1米ドル = 110円が105円となった場合は「円高」、110円が115円となった場合は「円安」と言います。円高の場合、米ドルをより少ない円で交換できるようになったため、円の価値は高くなったと考えることが出来ます。この、どちらか一方の価値が高くなった／安くなったということを、～高、～安という言い方で表しています。
- 「為替」レートは、各通貨の価値・魅力がどのように変化したのかによって変動し、より価値・魅力がある国の通貨が買われて高くなります。この価値・魅力を判断するには、各国間の金利差や経済成長格差のほか、政治などの安定性や将来性、各国の物価上昇（インフレ）の度合いや貿易収支の状況などが判断要素（為替変動要因）となります。

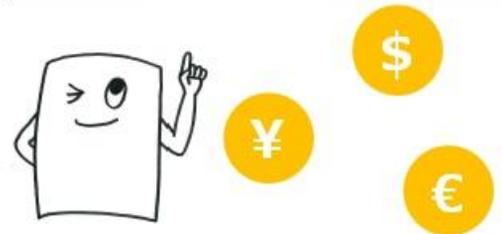
ポイント2

「為替ヘッジ」で為替変動リスクを低減

通貨間の金利差が「為替ヘッジ」のコスト

- 「為替」は、将来の為替を予約する「為替ヘッジ」を行うことによって、その変動リスクを抑えることが出来ます。「為替ヘッジ」を行う際には、対象通貨との金利差分が「為替ヘッジ」コストとなります。例えば、当該通貨よりも金利が高い国の通貨に対し「為替ヘッジ」を行うと、金利差分の利回りがマイナスとなります。現在であれば、円と米ドルがこの関係に当てはまります。
- 「為替ヘッジ」を行うと、円であれば、円高になった場合の為替差損を低減することは出来ますが、円安になった場合の為替差益を得ることはできません。

| | 為替ヘッジあり | 為替ヘッジなし |
|----------|-------------|-------------|
| 円高時の為替差損 | 為替差損を低減できる | 為替差損を低減できない |
| 円安時の為替差益 | 為替差益を享受できない | 為替差益を享受できる |
| ヘッジコスト | 常時発生する | 発生しない |



今後の展開

トランプ氏の政策期待や日米金利差から米ドル高円安基調の見込み

- 足元では、トランプ次期大統領の経済政策が米国景気にプラスとの見方から米ドル高・円安となっています。米国では主要な経済指標が良好で、年内の利上げ及び来年以降も緩やかな利上げが見込まれる一方、日本では金融緩和が続くとの見込みから、今後も米ドル高・円安基調が続くそうです。

ここもチェック!

2016年11月16日 投資環境を考える⑤ 「リート」の特徴と見通し
2016年11月 9日 投資環境を考える④ 「株式」の特徴と見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。